

図書ボランティアさんの本の読み聞かせ



2月18日(水)の昼休みに、今年度最後の学校図書ボランティアのみなさんの読み聞かせを行いました。1年生から6年生のほとんどの児童が担任の先生と一緒に図書室に集いました。今回は、加古川図書館の本をボランティアさんが借りてきて3冊紹介してくれました。最後に図書委員会と低学年の児童から感謝の気持ちをこめて、メッセージカードやお手紙を3人のボランティアさんに渡しました。

今回は、「ぼくはぼく」「カエサルくんとカレンダー」「あぶないばしょはどこち？」が紹介されました。「ぼくはぼく」は「ありのままの自分でいいよ」というメッセージでした。「カエサルくんとカレンダー」はカレンダーの名前の由来の本です。「あぶないばしょはどこち？」は両面開きの絵を見て、どちらが危ない場所か探します。子どもたちは、まちがいさがしのように違うところを集中して探していました。「身近な危険な場所について」話題にさせていただける1冊です。



とくしょ 読書クイズ 「カエサルくんとカレンダー」から

7月は July (ジュライ) といいます。

つぎのだれの名前がゆらいででしょうか？

- ① ブルータス ② ユリウス・カエサル ③ アウグストゥス

ご家庭で、お子様にお聞きください。
もっと本を読んでみたい人は、図書館へもお立ちよりください。

前回から引き続き、6年生がひがしっ子の「ブック・ウーマン」になって、本の価値について考えたことを紹介します。

本の大切さ

私は、「ぼくのブック・ウーマン」を読んで、本を読むといろいろないいことが起きると思いました。

高学年になってから、委員会の仕事やクラブなどで、図書室に行く機会が少なくなりました。家に帰っても、家に本はあるけどスマホを見ることのほうが多くなっていました。

でも、「ぼくのブック・ウーマン」を読んで、本を読むことで想像力が深まったり、集中力が高まったり、新しい言葉を知って語彙力が高まったり、いいことがたくさん起きるとということが分かりました。スマホを見ているよりも、本を読むほうが、ずっといいことが起きると思うので、これから、本を読む機会を増やしていきたいです。

今の時代は、スマホや SNS などが発達していて、つい、本の存在を忘れてしまうけど、読書習慣をつけることを心がけたいです。本を読むことで、自分の考え方や、初めて出会う感情にも気付けると思います。

私は、今よりもっと本を読む時間を増やしたいし、みんなにもスマホを見るのもいいけれど、たまには、「どんなときに自分はどう感じるのか」を見直すためにも、本を読んでほしいと思います。本は、読むと、感情が豊かになったり、人の気持ちを理解できるようになったりするので、人にとって必要なものだとこの物語で学ぶことができました。

今回は、続きを紹介します。お楽しみに！